

第32回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

1 日時：令和2年6月24日（水）14:00～16:00

2 開催方法：WEB会議

3 出席者：（委員）

◎黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）

○戸谷 好秀（独立行政法人統計センター特別参与）

兼川 真紀（弁護士）

亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）

斎藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）

名越 健郎（拓殖大学海外事情研究所教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

加瀬 徳幸 官房審議官

荒木 健司 管理室長

4 議事次第

・令和2年度平和祈念展示資料館の運營業務実施計画について

5 議事要旨

平和祈念展示資料館における新型コロナウイルス感染症に係る対応及び、令和2年度平和祈念展示資料館運営委託業務のポイントについて事務局より説明。その後、令和2年度平和祈念展示資料館の運營業務実施計画について委託業者から報告があり、質疑応答が行われ、最後に意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 新しい生活様式にふさわしい運営として、ネットでの発信がますます重要になるため、新たな可能性を意識した情報発信を考えるとよいだろう。

- 現在のインスタグラムは来館者誘引型で来館しない人向けではないので、継続的に新しいものを投稿することや、オンライン展示の工夫などが大事になるだろう。

- 語り部の証言収録は、(人との接触が制限される今、) 簡単にできる方法を考えてもよいのではないか。時間との勝負でもあるので検討していただきたい。

- 広報展開として、来館者など第三者の視点で、資料館のおもしろさや価値をユーチューブなどで発信する方策を考えてもよいのではないか。学生レベルでもアイデアを持っている者がいる。

- ホームページが地味で、アピール度がない。資料館からの情報発信について工夫したほうがよいだろう。

- 博物館協会のガイドラインを守り、よく対応の努力をしたと思う。空調が建物で管理されているため、独自での換気が難しい。時間外の換気についても工夫があるだろう。状況が落ち着くまで対応をやり続けていただきたい。

- 戦時中、戦後、それぞれの人が共通の体験をしているわけではないので、各資料や展示物の、場所、時期、出典などをできるだけ収集しておいたほうが説明の時によいだろう。

- 小学校や中学校にはキット貸し出しのほか、オンラインを利用・活用した取り組みも検討していただきたい。